

6月定例県議会開会

会期は7月3日までの22日間
コロナ対策等補正予算
約8億6千2百万

長崎県議会6月定例議会は6月12日に開会しました。

新型コロナウイルス感染症対策費などを盛り込んだ、本年度一般会計補正予算案など、30議案が上程されました。

「知事説明」

「知事説明」において中村法道県知事は、「新型コロナウイルス感染症の発生状況及び医療体制」について、本県では4月17日に17人目の感染



者が確認されて以来、新たな感染は発生していない事、長崎市三菱重工長崎造船所香焼工場に停泊中のクルーズ船「コスタ・アトランチカ」号の船内で発生した、大規模クラスターについて、無事出港をもって収束したことなどを報告し、これまでの県民の皆様のご努力や、事業者、医療従事者、自衛隊、国の機関など多くの関係者への感謝の気持ちを述べました。

「県内の医療体制」

現在の県内の医療体制について、長崎大学病院など4病院を重症者の受入病院に指定し、中等症の患者の受入病院として感染症指定医療機関や公立・公的医療機関等を医療圏ごとに指定するなどの調整を行っており、現在、新型コロナウイルス感染症患者の受入病床として307床を確保していると説明しました。

また、新型コロナウイルス感染症にかかる検査体制を強化するため、長崎大学病院において、新たにPCR検査機器を導入し、自動処理技術の開発を進めることにより、本県の一泊あたりの検査件数を約1,600件まで拡充していくと述べました。



「コロナウイルス感染症による本県への影響と経済対策」

これからは、「コロナと経済」2つの対策について県民あげて取り組んでいかなければいけません。経済を回さなければ地域は衰退していきます。有効なワクチン開発には、一定の期間が要する見込みなので「新しい生活様式」と業種ごとの「感染拡大予防ガイドライン」に沿った対策の徹底を図っていくしかありません。

中村知事は本県における経済の影響について次の事項を指摘しました。

- ①個人消費が大幅に減少する等大変厳しい状況にある。
- ②観光客が大きく減少した観光関連産業

「6月19日以降は県境を越えて」

6月19日以降は、県境を越える観光事業も順次再開される見込みであることから、長崎県は観光客の誘客促進をはじめ、県外市場まで視野に入れた産業施策を積極的に推進するなど、切れ目ない経済対策を講じようとしています。

これらのことについて、知事は「経済対策の効果を一時的なものに終わらせることなく、本県の（人口減少や少子化、高齢化など）構造的な課題解決や県勢浮揚につながるような施策効果の高い事業構築に努めるとともに、県と県内の市町、関係団体等との連携を一層強化し、相乗的な効果を発揮できるよう力を注いでまい

- ③消費の減速による農林水産品などの価格低迷
 - ④中小・小規模事業者の資金繰りや雇用不安
- その上で、知事は「新しい生活様式」と「ガイドライン」を推進しながら、「段階的な経済対策を積極的に講じていく」ことに重点を置くと述べ、今回の補正予算の自身が正しく「経済対策」であり、直ちに事業に取り組み効果をあげたいと述べました。

ります。」と力強く述べました。
それぞれの地域において、国、県、市、町それぞれの取り組みを連携させ、より効果的に「コロナ対策」と「経済対策」を前に進めて行かなくてはなりません。

経済対策は3本柱

① 「感染症の予防・拡大防止と県民生活の安全・安心確保対策」

○引き続き感染症患者の受入病床の確保。一般医療機関や歯科診療所等で不足するマスクを購入し、計画的に配布。長崎大学病院内の新たなPCR検査機器の導入・整備に対する支援。本県の検査・医療体制の充実・強化を図る。

○収入が減少している世帯に対する生活福祉資金貸付について、貸付原資を増額し、住居を失うおそれが生じている世帯に対しては、国の経済対策で拡充された住居確保給付金による支援を実施、生活に困窮されている方々のセーフティネットを強化する。

○離職を余儀なくされた方や家計収入の減少など経済状況が悪化した県内在住の大学生等の雇用機会を確保・創出する。アルバイト先の休業等により影響が生じている留

学生に対し、県内観光地の体験活動と情報発信を通じた支援する。
○梅雨時期の豪雨災害等に備え、市町の避難所における感染症予防対策のチェックリストを作成・通知し、避難所の追加開設や避難所での世帯間の一定間隔の確保、消毒や換気の励行などを要請し、必要な資機材の備蓄を進める。
○5月26日、避難生活において特に配慮や支援が必要な方々のため、長崎県旅館ホテル生活衛生同業組合との間で、災害時における宿泊施設等の提供に関する協定を締結した。

② 「県内の経済活動の回復・拡大対策」

○大きな影響を受けている観光分野に、6月1日から県民を対象とした「ふるさと再発見の旅」宿泊施設応援キャンペーンを開始。
6月19日からは佐賀県との相互誘客のための情報発信や全国からの誘客対策に取り組み、段階的に誘客対象を拡大しつつ、8月前後にも予定される国の大型観光キャンペーンにつなぎ、切れ目のない観光振興施策の推進に努める。

○県内宿泊事業者等が実施する雇用確保と受入態勢強化に対する支援枠を拡大。県産品の消費拡大に向けたオンライン物産展の開催や、インターネットを通じた前売り食事券の発行等による需要喚起に力を注ぐ。

○陶磁器をはじめ地域を代表する特産品等は、テレビショッピング等を活用した販路の拡大や、生産者団体等が実施する産地情報の発信、新たな輸出に対応するための貯蔵施設の整備等を支援する。

○農業分野は、外国人材の確保が困難なため、農業大学の学生を研修の一環として産地に派遣、人材確保に向けた情報発信に取り組み。

○国境離島地域にも、観光産業を中心に各分野で甚大な影響があるため、国の補正予算で創設された施策を最大限に活用し、これまで有

人国境離島法に基づく支援策により雇用拡大を図ってきた事業者が、支援期間満了後も雇用を継続できるよう、新たな支援措置を講じ、滞在型観光の振興に向けた施策を強化する。

③ 「『新しい生活様式』の実践と業種ごとのガイドラインへの対応のための環境整備対策」

新型コロナウイルス感染症は第2波、第3波の到来も予想され、根本的な予防法が確立されるまでは、感染防止を最優先に、これと向き合つて、県民の皆様には「新しい生活様式」の実践を、事業者の皆様には業種ごとのガイドラインへの対応をお願いし、日常生活や事業活動の中に定着させていくことが重要である。

○県内の中小企業・小規模事業者がガイドラインに沿って、非接触式体温計や消毒液等の購入、飛沫防止パーテーションの設置等、感染防止対策を進める際に所要の支援措置を講じる。製造事業者が行う手洗い場や自動ドアの設置、Webを活用した情報発信などを支援し、円滑な事業活動を促進する。

○人と人との接触を回避するための非接触サービスやテイクアウト、デリバリーなど新しい事業形態へ



の転換のほか、インターネット通販に取り組む事業者への支援を強化する

○都市部企業は、リモートワークやワーケーションの流れが加速しており、地方に向けた人や企業の移動が拡大する可能性も指摘されていることから、サテライトオフィス等の誘致に向けて、受入環境の整備や関連情報の発信に努め、本県の「関係人口」の創出・拡大を目指す。

○本県へのU・I・ターン者については、「ながさき移住サポートセンター」を中心に積極的な相談・支援活動を推進した結果、令和元年度の県外からの移住者数は過去最高となる1,479人となりました。今年度は、安全・安心な地方の暮らしや仕事の魅力を伝え、さらなる移住者数の増加に向けて、市町や関係団体と一体となって取り組む。

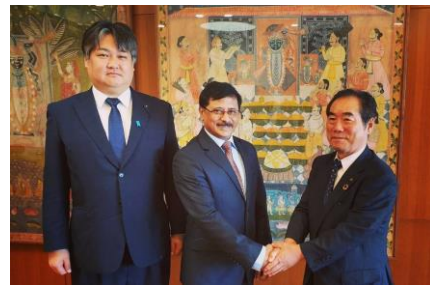
○国における「GIGAスクール構想」の加速化を受け、県立中学校や特別支援学校の小中学部では1人1台のパソコン整備を前倒しして進め、児童・生徒の学習環境の充実を促進する。
以上の内容を6月議会で審議してまいります。

志岐とインドと私

2

～第一の岐路の島～

志岐市の県立高校に変革を。そんな思いでしたが、既に長崎県は離島留学などの取り組みを展開しており、現在の取り組みをまずは強化すべきであって、新たな視点に立った大きな変化をもたらすには、生徒数や指導者の配置などに難しさを感じていました。



何よりも専門的な環境を整えるだけの生徒数が必要であることは誰の目にも明らかでした。その頃、同じ思いを持っていた白川博一市長は、介護福祉士の資格が取れる学校の誘致に取り組んでいました。程なく、長崎市に本校を置く「こころ医療福祉専門学校」が「介護福祉科」を志岐市内に設置しました。

「学校法人岩永学園こころ医療福祉専門学校」は、昭和62年長崎カイロプラクティック学院から始まり、その後、平成13年に長崎県知事許可を得て、専門学校となり現在に至っています。医療福祉を中心に社会のニーズをとらえた学科を多数有し、長崎市、佐世保市、志岐市にそれぞれ学校があります。志岐市に誘致できたことは大変素晴らしいことであり、志岐市内の高校生の進学先の選択肢として専門学校（しかも市内でも求められている分野）が増えることは大変素晴らしいことであり、また、志岐市の就学支援も魅力的でした。

しかしながら、それでも定員は埋まらないだろうと思いましたが、私は埋まらない定員をどうするのかと関係者に尋ねてみると、海外から生徒を募集するとの返答であったので驚きました。外国から意志ある若者を募集し、本国で日本語を学び、志岐へ。2年間で介護を学び卒業して日本で就職する。留学生の支えは州政府と志岐市の支援と将来就職するであろう職場からの支援で成り立っている。私はこの仕組みについて興味を持ち、様々な人と会ううちに、専門学校といくつかの外国をつないでいる「silver peak」（シルバーピーク社）を知ることになります。

県議会 6月日程

- 6月18日(木) 一般質問(1日目)
- 6月19日(金) 一般質問(2日目)
- 6月22日(月) 一般質問(3日目)
- 6月24日(水) 予算決算委員会
- 6月25日(木) 総務委員会審査
～30日

With You



写真は、植山由美子さん。

(一社)長崎県建設業協会志岐支部事務職員として、昭和54年9月1日から令和2年5月29日まで40年9ヶ月ご勤務されました。

永年にわたり地域振興にご尽力頂きありがとうございました。